

し ん じ ゅ 新 樹

2021
38号

前橋市男女共同参画情報誌

情報誌「新樹」は、水と緑と詩のまち前橋をイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようにという願いを込めました。

前橋市のホームページからでもご覧になれます

前橋市 新樹

検索



- 考えよう！SDGs×ジェンダー平等 P 2-3
コロナ禍と男女共同参画 P 4-5
「男女共同参画に関する市民意識調査結果」について P 6
きらり輝くヒトにインタビュー！ P 7
LGBTQ・不登校・ひきこもり…多様性の居場所づくり P 8



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ひとりで悩まず
相談してください

DV相談 ☎027-898-6524
男女共同参画相談 ☎027-898-6520

平日（月～金）
9:00～17:00

この情報誌は、市民ボランティア編集委員と前橋市が協働で作成しました。

考えよう！SDGs×ジェンダー平等

いまさら聞けない

SDGsってなに？

最近SDGsという言葉や17色の丸いバッジを目にすることが多くなっていると思います。

SDGsとは、日本語に訳すと「持続可能な開発目標」で、2015年9月に国連サミットで採択された、持続可能でより良い社会の実現を目指す世界共通の目標です。

17の目標（なりたい姿）と、169のターゲット（具体的な達成基準）から構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

2020年からSDGs達成のための「行動の10年」がスタートしました。

前橋市では「SDGs日本モデル」宣言（注1）の趣旨に賛同し、SDGsの推進に取り組んでいます。

◆目標5 ジェンダー平等
17の目標の一つ、目標5

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



は「ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメント

を図る」とされています。差別をなくし、暴力を排除すること、育児や家事の役割の認識・評価、あらゆる分野と意思決定の場における女性の参画、性と生殖に関する健康と権利の保障などが目標として挙げられています。

すべての目標が、私たちの生活の身近なことに繋がっています。そして、SDGsの目標はみな、これからの未来を生きる子どもたちに大きく関わるものです。

大人はもちろん、未来を担う若い世代が積極的に学び、実践していくことが大切だと思います。

（記事…中山）

◆SDGsは未来のためのもの
「SDGs」は一見難しそうですが、そんなことはありません。目標5のジェンダー平等をはじめ、

（注1）「SDGs日本モデル」宣言：

地方自治体が国や企業、団体、学校研究機関、住民などと連携して、地方からSDGsを推進し、地域の課題解決と地方創生を目指していくという考え・決意を示すものです。

ジェンダー平等 今の高校生はどう考える？

◆「ジェンダー」に関心を持ったきっかけ

田口さん…中学校の頃、授業で女性専用車両についての話題になった時、男子に十分に理解してもらえず、「逆差別」と言われてしまいました。女子校ではこうした話題をよく調べ、話し合ったりして、他の女子生徒は

前橋女子高校ではSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）というプログラムで1年次から探究授業を行っています。その中でも「なぜ日本はジェンダー後進国なのか」をテーマに学んでいる1年生の依田さんと田口さんの2人と、担当の先生にお話を聞きました。



どう考えているのか、社会とどう折り合いをつけていくべきか考えたいと思いました。

依田さん…小学校の頃に医学部の不正入試問題について調べていて、受験という一番平等な戦いだと思っていた場面での男女差に衝撃を受け、その頃からジェンダーに興味を持っていました。

自身の高校入試の際に通っていた塾で、男女で定員差がある私立高校があり、先生に尋ねると「男子の方が、数学ができて理系に進むから男子を増やしたいのでは？」と言われ、これもジェンダーが関連していると思いました。

◆女性自身の行動が権利を手放しているかもしれない

田口さん…女性であることを理由に



前橋女子高校

依田さん

田口さん

奪われる権利がある反面、女性自身の行動によって権利が失われている可能性があるという記事を最近読んだことが印象に残っています。

以前読んだ本の中に、女性が異性にモテることを意識する中で、男性の価値観を受け入れてしまっているという記載がありました。実際に雑誌等で「モテ」ファッションやメイクに反映されているなど思い、衝撃を受けました。社会や異性が作る女性のイメージ像を、受け入れてしまっているところが自分にもあるように思います。

◆社会に求める事と自分ができる事

田口さん…特に上の世代の方は、自身が抑圧されてきたことで男女差別が抜けきらないと思います。考えを変えるのは無理でも、例えば女性が理系を選ぶとか、男性と同じように働くことを否定しないほしい、見守ってほしいと願います。

依田さん…女性だから男性だからという言葉に縛られていた人たちが、それをまた次の世代に教育してしまいがちですが、私たちの世代が親になるころには、女性・男性の枠組みが減らせるのではないかと思います。変えていく意識を心に留めていきたいです。

◆女性が学ぶ権利が低かった時代

先生…ジェンダー分野を研究している生徒たちに、前女の110周年史

を見せました。

女性に学ぶ権利が当時は無かったということやこれからどう生きていくかが描いてあり、生徒たちも見入っていました。

この分野を選んだ生徒は80人程度いて、その中で様々なテーマの話し合いがされています。LGBTについて調べる生徒もいます。「なぜ日本はジェンダー後進国なのか」が正式なテーマなので、一部分ではなく、様々な視点で進めるように指導しています。

◆女子校に入学してみても

依田さん…リーダーになる機会が多くなりましたが世の中では政治面で女性リーダーが少ない状況です。女子校でのリーダーとしての経験が、男女一緒になった時にも発揮されるのでは、と思っています。

今は日本の教育において男女の差が無いとされていますが、学ぶ権利すらなかった時代を知り、100年かけて社会が変わっていくという変化を実感しました。

◆ジェンダー平等が進まない理由

依田さん…政治分野では日本は男性がリーダーであるイメージが強いですが。ニュージーランドは女性議員が半分を占めています。コロナ禍での男性、女性首相の対応の比較の記事も読みました。

国の代表という大きな立場から変

化していくことが大事だと思っています。

田口さん…同級生が、女の子だからという理由で進学校に行かせてもらえなかったと言っていました。高校進学の時点で、将来は結婚して専業主婦になるのだと、親が自分の生き方を子どもに押しつけてしまっています。

教育で女性の選択肢がたくさんあることを伝えたり、女性の進学に補助をつけたりとすることが必要だと思いました。



自身の身近な出来事から課題意識を持ち、歴史や現状、世界など、様々な視点で「これからをどう考えるか」ということについて、お二人とも真剣に語っていました。

私たち大人も価値観のアップデートを重ねて、次の世代に繋げていきたいですね。

(記事…問々田)

コロナ禍と男女共同参画

二人で協力！ コロナ禍の子育て

コロナ禍の中で出産、子育てをされている棚島隼人さん・詩織さんご夫婦にお話を伺いました。

◆妊娠・出産について

「初めての出産だったので、ほかの人達と情報交換がもつとできたら良かった。両親学級で冊子をもらっただけで、よくわからず不安がありました」と詩織さんは言います。

隼人さんが、楽しみにしていた立ち会い出産も実現できず、産院の玄関で「がんばってきてね」と言葉かけのみ。

その後、リモート出産で画面越しの立ち会いとなり「生まれた実感がなく、これって立ち会ったのかな？」と隼人さんは思ったそうです。

「出産後、個室で孤立し、まわりのママたちにも会えず、情報交換のないまま引きこもっている感じでした」と詩織さん。

唯一の救いはSNSのビデオ通話で夫婦が繋がっていたことでした。

◆子育て中の悩みや不安

「コミュニケーション施設も閉館され、



棚島さんご夫婦

◆コロナ禍で思うことは？

「どこへ行けば良いのかわからず、とても不安でした。SNSで同世代のママたちと仲良くなり、わからないことを聞きあったりしていました。対面での情報収集が全くできずネットを頼りにするしかなかったです」と詩織さん。

同じ月齢の子どもがいるママたちと情報交換をするどころか、直接会うことも繋がりを持つこともできません。

なかったり、パパが仕事で忙しければ、ひとりで育児をするストレスで幼児虐待などに繋がるリスクがあるのではないでしょうか？」と隼人さん。

「産院ではママたちの交流や情報がなく、どこかで赤ちゃんの泣き声がしているだけで、自分の描いていた出産と現実とは違っていました」と詩織さん。コロナ禍の切実な現状を語っていただきました。

しかし、この状況だったからこそ、詩織さんには良いこともあったようです。オンラインの料理教室に参加し、手作りパンを作る事でリフレッシュしているそうです。

「カステラが焼けるようになったんですよ。それが美味しくて。それにパンだと離乳食になるじゃないですか。最近たくさん作ってくれるよね」と満面の笑みを浮かべ、詩織さんを覗き込む隼人さんに「そう、それが楽しいんだよ」と詩織さん。二人で協力し、仲睦まじく子育てを楽しんでいました。

◆前橋市での取り組み

「離乳食講座」を動画で配信

前橋市で行っている子育てに関する講座もコロナの影響で中止や縮小になりました。

そんな中「離乳食をいつ始めたら良いのか」「どんなものをあげたら良いのか」という電話の問い合わせが市にありました。言葉で説明するより、動画で配信すれば丁寧に伝えることができるのではないかと考え、市子育て支援課ではYouTubeによる動画配信を行ったそうです。

内容は①離乳食を開始する時の目安やポイント②おかゆの作り方(炊飯器・お鍋・レンジ)のパターンを紹介しています。


家族で一緒に観ることができるので共通の認識をもつことができます。

前橋市

はじめての離乳食

動画①「始め方」

赤ちゃんの発達に合わせてすすみましょう



前橋市 子育て支援課

はじめての離乳食
動画①「始め方」



はじめての離乳食
動画②「おかゆの作り方」



離乳食に関する講座は、現在動画配信の他に対面やZoomによるオンラインでも実施されています。その他、前橋市では初めての妊娠・出産・育児等について学べる『ハローベビークラス』や助産師や保健師による『妊産婦・新生児家庭訪問』など、子育てを応援する取り組みが充実しています。

コロナの影響は男女によって違う？ ～男女の雇用について～

◆新型コロナは、男女格差を浮き彫りにした

昨年から日本をおそった新型コロナは、感染による健康被害はもちろん、学校の休校やイベントの中止、リモートによる勤務や会議など、社会生活に大きな影響を与えています。人の集まる場所でのマスク着用や消毒・検温などは、日常風景として定着しました。

新型コロナの影響は、男女等しく及んでいるのではなく、性差によって現れ方が違ってきます。

2019年に発生した新型コロナの被害を防ぐため、政府や各都道府県は「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」を出しました。

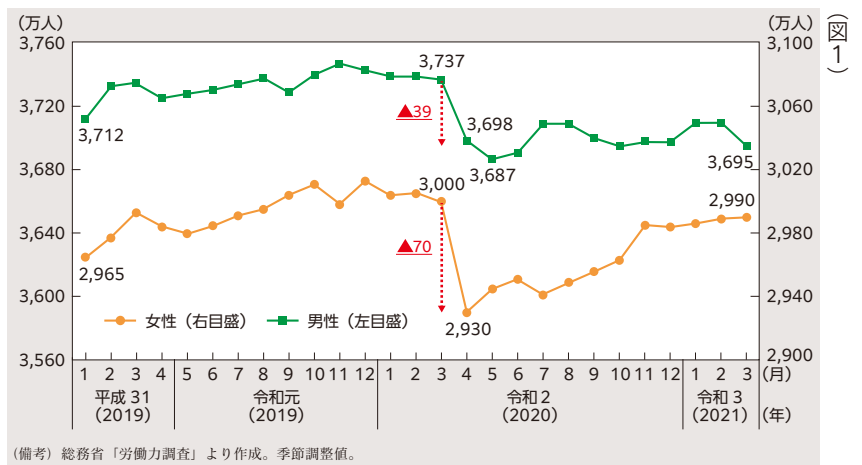
これらの措置で、集客を前提とする店舗や施設は経営的に大きな打撃

✿ コロナ禍の今、たくさんの方のリスクを抱えて子育てしているご家族の皆さんのご苦労と、それを支援する市の取り組みを知り、子どもたちの健全な成長と豊かな人間性の発達のために、子育て支援の大切さを改めて感じました。
(記事：笹澤)

を受けました。補償制度もありましたが、飲食店などは従業員の解雇や閉店に追い込まれたところも少なくありません。

就業者数の推移を見ると、男女共に緊急事態宣言が出された2020年4月に、前の月と比べて大きく減少しています。男女で比較すると、女性の減少幅が大きくなっています。(図1)

独立行政法人 労働政策研究・研修機構の研究によれば「2020年4月から11月中旬までの約7か月間に、解雇や労働時間急減等、雇用の変化を経験した割合は女性が男性の1.4倍、解雇・雇止め後の非労働力化は女性が男性の1.6倍」と指摘しています。



◆コロナ禍での女性の雇用環境

労働政策研究・研修機構のレポートでは、コロナによって「Shedding」と呼ばれる現象が生じたといいます。これはshed(女性)とrecession(不況)を合わせた造語で、女性の方がより雇用を奪われる傾向を言います。

それとは別に、そもそも「女性の方がより多く就職を諦める」とい

う傾向も指摘されています。休校で子どもが家にいるので、世話をするため仕事を辞めるケース。また、外食が制限され、女性の家事負担が増えるケースなどがあります。さらに、非正規やパート、派遣など、不況時に人員削減されやすい雇用環境に女性が多い実態もあります。

こうした雇用形態は、コロナ後にどう改善されていくのでしょうか。リモートの普及で女性が働きやすくなった面もあるかもしれませんが。また、男性の在宅時間が長くなったので、家事育児を担当するようになった家庭も多いようです。

(記事：高坂)

生理用品の無償配布をしています

市では、コロナ禍における女性支援として、生理用品の無償配布を行っています。用品の寄付も受け付けています。詳しくはホームページへ。



「男女共同参画に関する市民意識調査結果」について

前橋市では、現状の市民意識や行政に対するニーズを把握するとともに、今年度策定予定の次期前橋市男女共同参画基本計画の参考資料とするため、令和2年9月に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。

無作為に抽出した市内在住の満18歳以上の男女3,000人に調査票を郵送し、1,181人の方から回答をいただきました。（有効回収率39・4％）その結果の一部をご紹介します。

○性別役割分担への意識

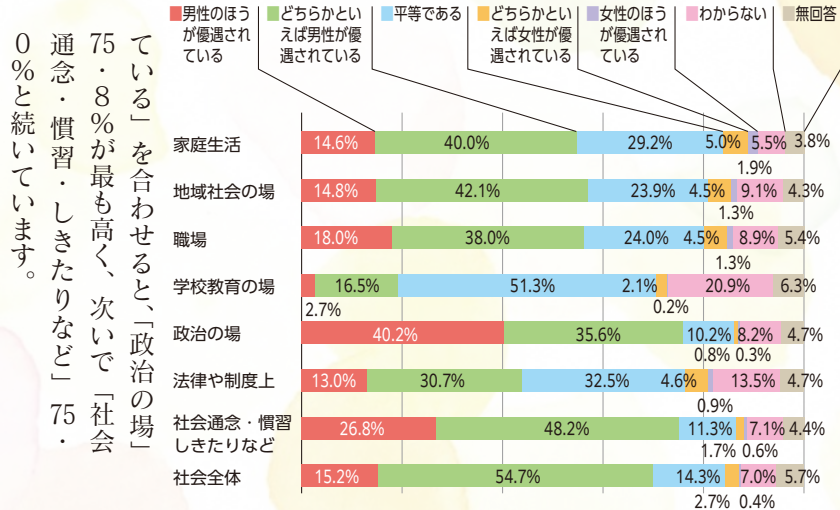
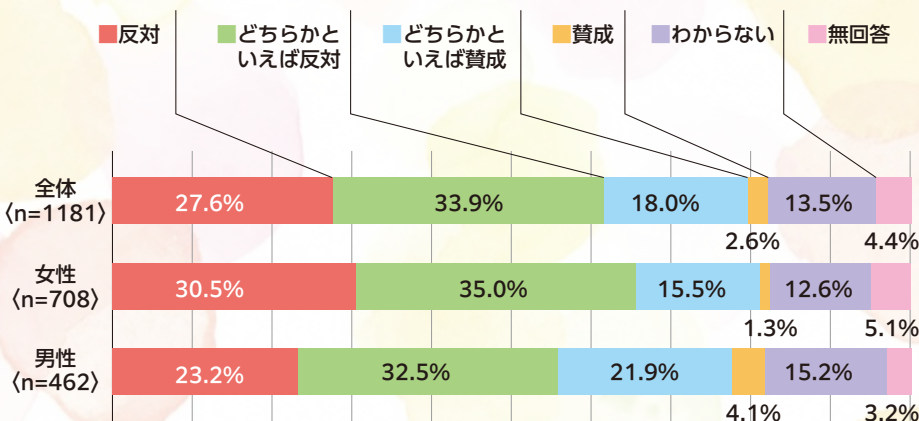
「男は仕事、女は家庭」という考え方について聞いたところ、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、全体で61・5％でした。性別で見ると女性65・5％、男性55・7％で、女性が9・8ポイント上回っています。



○男女の平等感

「平等である」は「学校教育の場」51・3％が最も高く、次いで「法律や制度上」32・5％、「家庭生活」29・2％と続いています。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」



この他にも様々な項目について調査をしています。調査結果はホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。



前橋市公式YouTubeチャンネルで動画配信中です！ ○「人形劇と男女共同参画戦隊ステッパー」

男女共同参画をテーマとした人形劇と寸劇の動画です。

前橋市内で活躍する「おはなしの会もここ」が、オリジナル脚本でお届けする人形劇「桃太郎とステッパー」。男女共同参画戦隊ステッパーも登場！お子さまも楽しくジェンダーについて学ぶことができます。

このほかにも、当センターで作成した動画を配信しています。市のホームページで紹介していますので、ぜひご覧ください。



人形劇「桃太郎とステッパー」



きらり輝くヒトにインタビュー！

女性管理職の立場から見える

男女共同参画とは

国立赤城青少年交流の家所長

松村純子さん

「本物体験学びの宝庫」がキャッチフレーズの国立赤城青少年交流の家所長の松村さんにお話を伺いました。



◆国立赤城青少年交流の家は
どんなところ

団体宿泊体験を通して、健全な青少年の育成を図ることを目的に、昭和46年に開所し、今年で50周年を迎えました。四季を通じて豊かな自然環境の中、様々な体験や交流が行える施設です。

◆なぜ国立施設に？

施設で女性が働く環境は

千葉県の子小学校教育論として勤務している時に社会教育主事の任用

資格を取得しました。千葉県には、複数の県立の青少年教育施設がありました。当時は労働基準法で女性の深夜業務の規制があり、女性の宿直体制は整ってはいませんでした。

平成9年度に国立の施設へ出向することになりましたが、国立施設でも宿直体制は整っていない状況でしたが、宿直を希望しましたので、宿直室内の内カギ設置、女性職員専用の布団の準備、トイレへの外扉の設置など、男性の多い職場の中で女性が同じように働くために、整備して頂きました。

◆女性職員が必要だと
感じたときは

施設は性別に関係なく、様々な方が利用します。当時は、男女雇用機会均等法の改正前でしたので、女性職員は宿直をしていませんでした。今はもちろん、行っています。専門職員時代に、入浴中に体調を崩してしまった女性の手当てを宿直時に行った経験があります。が、女性でないと対応できないことも数多くありましたので、青少年教育施設に女性職員の宿直の必

要性を強く感じました。

◆男女共同参画について

教員時代は、女性校長や女性教頭の下で、違和感なく働いていました。施設では、男性の管理職の多さに驚きました。

施設のボランティアや社会教育実習生は女性が多く、職員を募集すると女性の志願者がとても多いのに、管理職を目指す人が少ないというのが現実です。もちろん、結婚や出産もありますし、全国異動もある職場なので、原因は様々だと思いますが、これから先、男性も女性も分け隔てなく、将来の目標を設定できることが大事だと思います。

そのためには、子どもの頃から男女の役割について考える機会を持つことが大切です。例えば、野外炊事の指導でいうと、男の子が「火起こし」、女の子が「調理」と決めて役割分担するのではなく、全員が両方できるように支援したいと考えます。

◆今後やりたいことは

回遊魚のように動き続けるような性格なので、なかなかゆったりできませんが、子どもが好きなので、今後もずっと青少年教育に携わっ

赤城の自然の中で様々な活動ができます



国立赤城青少年交流の家



(記事：薫)

ていきたいと思っています。
実は、父と母は群馬県出身なので群馬は私にとってとてもゆかりのある地です。ここまでやったから満足という事はありませんが、青少年教育が盛んな群馬県を更に盛り上げていきたいです。
ウィズコロナ時代を考え、今から「体験活動を止めない」ために行動する必要があります。やらなくてはいけない事が沢山あります。
今いる施設が「最高の施設」となるように日々働いています。公的機関や民間団体と引き続き、連携しながら「半国立、半地域立」を目指し、地域に役立つ施設運営をしていきたいと思っています。

LGBTQ・不登校・ひきこもり… 多様性の居場所づくり

今年7月、コミュニティスペース「まちのほけんしつ」がまちなかにオープン!!

●「まちのほけんしつ」はどのような場所？

LGBTQの支援団体「ハレルワ」と、不登校・ひきこもりの若者の居場所「アリスの広場」の2団体で運営しています。2019年から、商店街の空き店舗に自分たちで手を入れ、修繕しながら準備を進めてきました。新型コロナウイルスの影響により、大勢で集まっての作業が進められなくなり、建物の老朽化による追加工事もあったので、正式オープンまでに2年かかりました。

現在は、水・木曜日をアリスの広場による不登校・ひきこもりの若者のための安心できる居場所、火・金・日曜日をハレルワによる誰でも利用できるコミュニティスペースとして開館しています。異なる2団体の連携により、複数のマイノリティ性を併せ持つ人や当事者以外の人もアクセスしやすくなっています。



オープニングイベントでは山本市長をゲストに
YouTube配信を行いました

左から、ハレルワ間々田代表、山本市長、アリスの広場佐藤代表

●「まちのほけんしつ」の過ごし方

施設内では、フリーWi-Fiや電源が使えます。スマホの充電やPC作業もできるので、学生がレポート作業に利用することもあります。座席はカウンター席やテーブル席、小上がりスペースもあります。利用者が多いとき

は2階の和室も利用できます。

のんびり自分の時間を過ごす人もいれば、スタッフや利用者同士でおしゃべりしたり、ちょっとした相談をしたりする人もいて、みなさん思い思いの過ごし方をしています。



●目指す「場」づくり

今後はコロナの様子を見ながら、ワークショップや展示など、スペースの貸し出しもできるようにし、この場所に関わる多様な人たちが自分の好きなこと・得意なことを活かせる使い方を考えていきます。

家・学校・職場とは別の居場所として、新たな人との接点の場として、みなさんのご利用をお待ちしています。

(記事：間々田)

コミュニティスペース まちのほけんしつ

千代田町4-18-4 (オリオン通り商店街アーケード内)

・アリスの広場 水・木曜日 13時～17時
HP <https://www.npo-alice.org>

・ハレルワ 火・金・日曜日 14時～18時
HP <https://www.hareruwa.org>

※利用料金・利用方法等は各団体のHPをご確認ください。



編集後記

●多様性や持続可能な社会など、大きなテーマに思えますが、身近なところに課題があります。公式論や観念論でなく、自分の問題として考えていきたいと思います。
高坂 均

●コロナ禍の中、工夫をして笑顔で楽しみ育てをされているご夫婦とお子様に出会い、微笑みと安堵感を覚えたのと同時に、一層の支援の必要性を痛感しました。
笹澤 嘉子

●未来を担う子どもたちが「持続可能な社会」の創り手となるために、必要な資質や能力が育成されるようESD教育を推進し、家庭や地域でも広がりを持つことが大切だと思います。
中山 洋子

●10代の二人にインタビューさせていただき、身近な課題からジェンダー平等を考える姿に大変刺激を受けました。差別のない社会を次の世代に引き継ぎたいですね。
間々田 久渚

●今回取材をしながら、直接話を聞かないと見えてこないものがたくさんあることを改めて感じました。これから多くの方に知ってほしい情報を紹介していきたいと思います。
篠 若葉

発行日：令和3年10月 編集：「新樹」編集委員

発行：前橋市男女共同参画センター 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館1F

直通電話：027-898-6517 FAX：027-221-6200 メールアドレス：sankaku@city.maebashi.gunma.jp

《ご意見・ご感想をお待ちしています!》

新樹第38号・2021年10月 8